

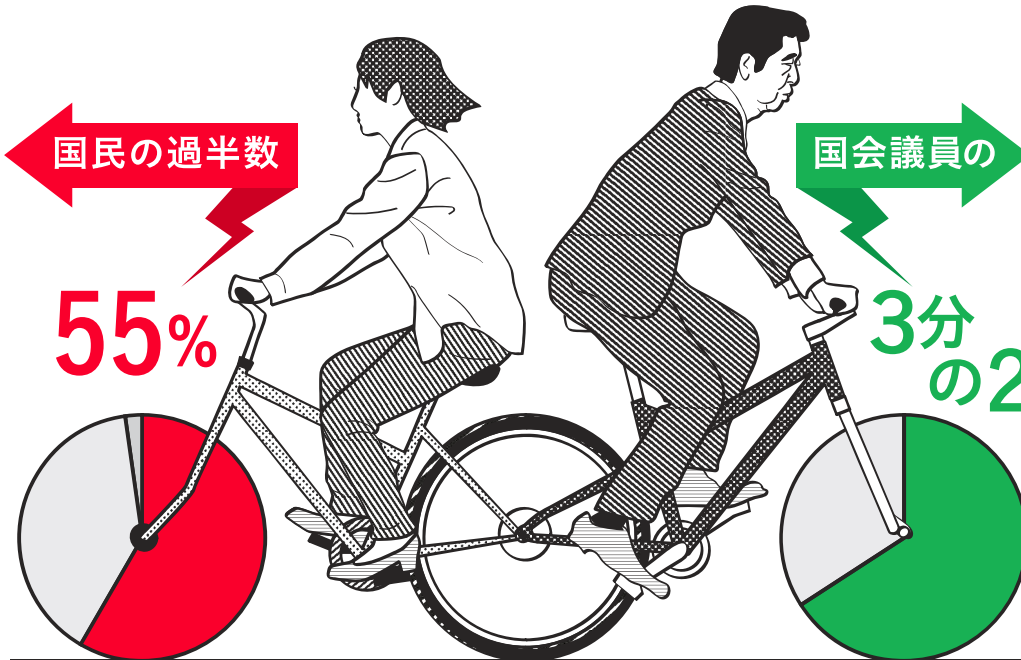


MIN-IREN 憲法 Café

vol.1
2016年10月発行

【民医連新聞発行所】日本民主医療機関連合会 【発行人】岸本 西介 〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター7F TEL03-5842-6451 FAX03-5842-6460 URL http://www.min-iren.gr.jp

今の憲法がいい



憲法変えたい

※朝日新聞 2016年5月3日付より作成

このところ、「改憲(カイケン)」という言葉がメディアをにぎわしています。今年7月の参議院選挙で、改憲勢力(今の日本国憲法を変えようと主張している政党・政治家)が、3分の2の議席を得たからです。なぜ「3分の2」か?それは憲法を変えることのできる条件だからです。

日本国憲法第96条(改正の手続、その公布)

『この憲法の改正は、各議院の総議員の3分の2以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際行はれる投票において、その過半数の賛成を必要とする』

ところで、参議院選挙後のマスコミ各社の世論調査では、どの調査も、「憲法改正に反対」の国民が50%前後で、「改正に賛成」を大きく上回っています。『信濃毎日新聞』の長野県世論調査(8月9日)では、参議院選挙で改憲勢力が3分の2を超えたことで「改憲が支持された」とは思わない」とする人が72%にのぼり、特に「憲法9条改正反対」が60.3%に及んでいます。事実、選挙中に安倍首相や政権与党の人たちは、「憲法をどう変えるか」についてはまったく語りませんでした。

安倍首相は、前々から、自分が総理大臣であるうちに憲法を改正することを公言しています。選挙中に何も語らなかった首相は、選挙直後の記者会見でこう言いました。

「いかにわが党の案(自民党改憲案)をベースにしたから3分の2を構築していくか。これがまさに政治の技術です」

国民の過半数は憲法を変えなくていいと考えているのに、改憲勢力は「3分の2」をチャンスとして本格的に改憲に着手……。こんな状況のなか、私たちも、「なぜ改憲なの?」「憲法のどこをどう変えるの?」「憲

法が変わったらどうなるの?」など、あらためて考え語りあってみましょう。

題して「MIN-IREN 憲法 Café」。これから、テーマを決めて、シリーズで考えます。改憲そのものについては、まとめて次回以降で取り扱うとして、まずは、今の日本国憲法が私たちのくらしや仕事にどう関わっているか、見てみることにします。

8万人以上の職員が学んだ

昨年の憲法学習大運動

昨年の憲法学習大運動では、全国で8万数千人の職員が参加して学びました(民医連の職員は常勤換算で8万833人です)。寄せられた感想で多かったのは、次の3つです。

初めて憲法を学んだ。こんなに大事なものだということを知らなかった。今の私たちの生活は憲法によって守られている。私たちの医療や社保活動の根拠は憲法にある。

憲法は国民を縛るのではなく、権力を縛るためにあることを初めて知った。

自民党改憲案のような内容で憲法が変えられれば恐ろしい。あとになってから、知らなかったとか無関心だったとか勉強不足だったでは済まされない。

【立憲主義】 国民の自由と権利のために、権力を縛ること。
Constitutionalism

憲法というのは、どんな人も生まれながらに持っている個人としての尊厳と権利を確認し、国家権力に向けて、それを守るために政治を行なうことを求めるものです。この「立憲主義」によって、私たちの自由と権利が守られています。

だから日本国憲法の条文もそのような主旨でなら

んでいます。大ざっぱに言えば、前半(前文から第3章)で国民主権、平和、基本的人権といった国民の自由と権利の保障について述べ、後半(第4章以降)で国家権力のしくみとあり方について書かれています。つまり、憲法を守る義務があるのは国家権力の側にいる人たちです。

日本国憲法第99条(憲法尊重擁護の義務)

『天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ』

個人としての尊重・生命・自由・幸福追求の権利・男女の平等といった憲法の理念を、社会の隅々に具体的に引き渡らせる必要性を、日常診療の中に痛感している。(鹿児島生協病院・小児科医 玉江末広)

小児科医療に携わり30年近くになる。外来に来る子どもたちは、自分の孫のようにかわいい。毎日子どもたちに元気をもらいながら診療している。そういうなかで、お金がないために定期受診を中断したり、ワクチンを受けることができなかったり、インフルエンザ脳症で亡くなったりと、貧困問題に遭遇する場面が多くなった。

現在の日本においては、子どもの六人に一人が相対的貧困であり、また一人親家庭での相対的貧困率は50%を超えているが、現実には貧困がなかなか表面化せず他人にも相談できずに一人で悩ま苦しむために、問題がより深刻化しているようにみえる。忙しい小児科外来では、子どもの抱える問題に気がつきにくいのが、気になる患者さんがいた時、少し時間をかけて家庭の様子などを伺うことで、あまり出しのようにならずに問題が浮き上がってくる。

共働きなのに父親が育児に協力してくれず、母親一人で、仕事育児に悩み苦しんでいる。母子家庭においては、もっと深刻である。パート勤務の母親が多く、生活が苦しく、「子どもが病気をしても仕事は休めない」と入院させられないと訴える。母親の両親は共働きで、両親にもお願いできない。近所の人とのかわりも薄く、近所の人にも頼めない。病児保育は、お金が高くて預けられない。イクメンパパが世の中では話題になっているが、現実には、母親の苦労する姿が見えてこない。

子どもたちは社会の財産であり、日本の将来は子どもたちにかかっている。日本政府は子育てにお金をかけているだろうか。安心して子育てができるよう、お金持ちや大金業が優遇される税制の問題、非正規雇用や労働時間など働き方の問題、最低賃金の問題などを改善し、子育て、教育、医療、福祉などに十分にお金が分配されるかが喫緊の課題である。

現場から見える憲法

憲法があるから 「それおかしい」 つて言えるし たたかえる



人は誰もが個人として尊重され、自由に、幸せを求めて生きていくことを願っています。そのことを日本国憲法は、最も大事な人権として確認し、政治の最優先課題と位置づけています(憲法13条、個人の尊重、幸福追求権、公共の福祉)。そしてその条件は平和であること、憲法前文、9条と、健康で文化的に生活すること、憲法を要です。だから政治に携わる者は、人々から預かった税金を、軍事ではなく福祉の向上に使わなければなりません。

ところがこのすばらしい内容を「じゃまだ」といつて変えようとする人々がいます。そういう人々によって、憲法の理想と正反対の現実が引き起こされているのです。たとえば……。

安保関連法、戦争法が成立し、海外で戦争できる国づくりがすすめられています。日本の軍事費は過去最高となり、5兆円を超えました。また、「企業が世界で一番活躍できる国がめざされ、大企業や富裕層は戦後最大の利益を更新する一方、経済格差が広がり、貧困とくらしの困難が多くなる人々を苦しめています。しかし国の社会保障費

は削られ続けています。人間らしく生きることそのものの危機が広がっています。

時給6千円、法人税ゼロ… 憲法をじゃまと考える人々の群れ

「おなかいっぱいにご飯が食べられない子が豊かな国であるはずの日本で6人

1人もいる異常事態」同志社大学教授の浜矩子さん(経済学)の言葉です。

貧困率16%。世帯所得から国民一人ひとりの手取り収入を計算し、それを並べたときに真ん中となる人の額の半分未満に満たない人の割合で、日本はいまや世界でトップクラス。1人世帯で約125万円、2人世帯で約170万円未満です。働いても貧困状態を解消できないワーキングプアが2千万人を超え、65歳以上の高齢者の貧困率は22%まではね上がりま。世論調査で「生活が苦しい」と答える国民は6割を超えます。

ところが、従業員にブラックな働き方をすることで有名な大手衣料品会社の会長は、政府の経済政策の「恩恵を受け、3年の間に株で1兆6千億円もつけました。」「時給にして何と6千円です。またある大手自動車メーカーは大手企業を優遇する税制を活用し、2009年からの5年間法人税を1円も払っていません。政権与党への巨額の献金が効いているのでは？」

こうした格差と貧困は仕方ないのでしょうか?世界3位の経済力がある日本、やっぱり「おかしい」と言わざるを得ません。

自己責任ではどうにもならない 貧困、健康格差、教育格差

民権連のある県連が行った生活保護受給者生活実態調査では、貧困は、自己責任ではどうにもならない「社会の問題」が原因であることが、あらためて明らかになりました。受給のきっかけの大半が、「病気」「会社の倒産」「失業」などです。しかもその生活は、「食事1日2回以下が40%」「入浴週3回以下が85%」「教養娯楽費はゼロ円」など。とても「健康で文化的」とは言えない人が圧倒的です。そして、冠婚葬祭などの地域でのお付き合いができずに、社会的孤立を余儀なくされています。

またこうした生活保護基準以下の生活を強いられたら、生活保護を受けることができなくなりが急増しています。

経済格差は、病人が患者になれない「患者者になっても手遅れ状態」といった健康格差、さらに「進学をきらめざるを得ない」とあるいは「進学できても奨学金返済というローン地獄が卒業後の長期にわたって続

く」という教育格差もつながっています。日本の大学生の2人に1人が奨学金を借り入れ、その平均は300万円です。給付制の奨学金制度がないのは先進国で日本だけです。

がんばる国民を励ます 日本国憲法のメッセージ

世界の多くの国々が、教育費や医療費を原則無料または超低負担にしているなか、日本の現実とは、そんな世界の流れや憲法からいっても、あまりにも異常です。問題は、税金の集め方、使い方、つまり政治の姿勢です。それだけにたくさんの方が、憲法を力に立ち上がり声をあげています。

「戦争法反対」「立憲主義を守れ」「だれの子とも殺さない」「みんなのくらしに税金使え」「介護職の処遇改善」「医療費窓口負担増反対」「給付制の奨学金制度の実現」「保育園の拡充」「大企業・富裕層に応分の税負担を」「消費税増税反対……」。

憲法を変えて、平和や国民のくらしよりも自分たちの利益をどこまでも追求する勢力と、それを許さず、憲法を社会とくらしに生かそうとする国民のたたかいです。

日本国憲法はそんな国民を大いに励まし、期待を込めたメッセージを発信しています。

日本国憲法第97条

(基本的人権の本質)

「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできな永久の権利として信託されたものである。」

日本国憲法は、こうした自由と権利を守るための、国民の不断の努力(憲法12条)を期待し、声を上げる方法やたがう手段を山のように示しているのです。法の下の平等(14条)、選挙権(15条)、請願権(16条)、思想及び良心の自由(19条)、集会、結社、表現の自由(21条)、勤労者の団結権(28条)、裁判を受ける権利(32条など)。

★次号は憲法9条について取り上げます。



弁護士 白神優理子の
憲法は希望 vol.1

私の人生を変えた 日本国憲法との出会い

ではないかと漠然と考えていました。けれど高校生の仲間たち、戦争体験者の方、高校の先生方と学ぶ中で、日本国憲法はむしろ「私たち国民の自由、権利を保障することを国家権力側に命令しているもの」ということを知ってとても感動しました。しかもこのような画期的なシステムが生み出した背景には、侵略戦争で多くのアジアの人々を殺した後、天皇のために死ねと子どもたちに教え、戦場へ追いやった後悔、犠牲となった多くの命があります。真実を隠し侵略戦争を進めた国家権力の手足を縛り、国民こそを主人公にすることで二度と過ちをくり返さないようにしようという「決意」が日本国憲法の原点であることを学びました。

「日本国憲法との出会い」は私に希望をくれました。あまりにも残酷な歴史の体験を教訓として定期的なシステムを、しかも「最高法規」として作り上げた人間は決して醜くなんかないんだと知りました。私にとって日本国憲法は、人間の歴史が前に進むことを教えてくれる希望の存在です。

それなら私は、このすばらしい日本国憲法を本物にするため闘うたくさんの人々を励ますことができる弁護士という職業に就きたいと思ふようになり、自分の夢を見つめることができました。今は弁護士として権利のために立ち上がった人々と闘いながら、日本国憲法の希望を伝えたいと思ひ講演活動などに取り組んでいます。憲法との出会いは、私の人生を180度変えてくれた出会いでした。

日本国憲法に出会う前の私は、進学塾では競争の階段から落ちないように、学校では嫌われないように周りの空気を読むことに必死な毎日でした。「人間は醜く、歴史は過ちを繰り返すもの。」「だから私にできることは何もない。生きている意味もないのではないか。」と諦めて落ち込んでいました。

そんな私が変わったのは、高校生になってからです。高校生平和ゼミナールという全国サークルに入り、サークルの仲間と共に戦跡地を巡り戦争体験者の方々のお話を聞きました。戦争は命を奪うだけでなく、生き延びた人達の人生を生徒にわたって壊し続けていくのだと痛感し、歴史が強く思いなりました。

そして多くの戦争体験者の方々が「君たちが次の社会をつくる主人公だ」「日本国憲法は希望だ」と力強く語ってくださいました。

実は私は憲法にはあまり良いイメージがありませんでした。法律というからには、校則のように私たちを縛るものなの

弁護士 白神優理子プロフィール
神奈川県海老名市生まれ、厚木米軍基地の近くで生まれ育った。高校に入学しては、幼い頃より関心をもつ「和光高校在中」で、高校生平和ゼミナールを中心に平和活動、世界の子どもへの平和像をつつとる会や東京高校生平和のつどいの実行委員長を務めた。活動に取り組み中、日本国憲法の精神である平和と民主主義を実現したいという方のために法律を使いたいと決意し、弁護士を志す。2013年12月弁護士登録、八王子合同法律事務所所属。